

Parisienne 突撃インタビュー

今月のお客さま

美香 さん

集めたフェーヴは2000個!? フェーヴコレクターに聞く公現祭の楽しみ方

1月6日の公現祭(エピファニー)*のお祝いの集まりになくはないお菓子、ガレットデロワ。お菓子の中にはフェーヴ(fève)と呼ばれる小さなおもちゃが入っており、フェーヴが入った一切れが当たった人は一日王様になれるというフランス独自の文化があります。今回は、フェーヴコレクターであり、版画家・カルトナージュの先生としても活躍される美香さんにフェーヴ文化についてお話を伺いました。



ガレットデロワの「平和な」切り分け方

◆美香さんのフェーヴコレクションはいくつあるんでしょうか？

数えたことはないんですけど、たぶん2000個くらいでしょうか。ものすごい量です。フランスではフェーヴのコレクターが集まるサロンが開かれていて、そこでいろいろなフェーヴを買ったり、この1月は私もスタンドを出す予定です。

◆いつ頃から集め始めたのでしょうか？

もう33年前にもなりますが、長男がお腹にいる臨月の1月頃、主人がダロワイヨのガレットデロワを買ってきたんですね。「この中に小さいおもちゃが入ってるんだよ」と主人に言われて見たのが初めてのフェーヴでした。それがだんだん集まって面白くなってきて、一生懸命食べて集めるようになったのは、2000年に入ってからです。

◆どんなふうを集めるのでしょうか？

あるフェーヴをかわいいなと思ったら、毎年フェーヴ協会が出している今年出たすべてのフェーヴが載っているカタログで調べて、それを探して集めるんです。コレクター同士で交換することもありますね。サロンに行くとも1個ずつ、1€から買えますし、集めたものはカタログにチェックを付けて楽しめます(笑)。昔のフェーヴですとサロンでも、30€以上しますね。アンティークのフェーヴの中でも、初期にドイツで作られていたものはプルミエエポック(第一世代)と呼ばれ高額で取引されています。

◆家族で食べるときに、ガレットデロワはどう切り分けられますか？

ガレットデロワを切るとき、集まった家族で一番年齢が下の子をテーブルの下にもぐらせるんです。「これは誰に？」って聞くと、その子が「これはおじいちゃんに」「これはパパに」って指示をする。「それは僕に」って下の子が言ったら、お母さんがわざとフェーヴが当たるように分けてあげる家庭も多いです。それが一番平和だから(笑)。フェーヴが当たった子が王冠を被って王様になれるんです。今でも家族で集まったら、下の子にもぐらせてやります。

フェーヴ収集の楽しみで 長い冬を乗り越える

◆切り分けたときにはフェーヴの位置はわからないものなのでしょうか？

結構な確率でナイフがフェーヴに当たることはあります(笑)。みんなでわかることもありますしね。こちらではシードルと一緒にいただきますね。普通にお茶にも合いますよ。

◆1シーズンでどのくらいの量を食べるんですか？

家族も好きだったので、多いときは20個以上とか。12月末くらいから始めるんですが、有名店は1月初めから始まって2、3週間で販売終了のところもあるので忙しいんです。昔は朝・昼・夜と3回食べていました。息子が1月生まれなんですが「お誕生日ケーキだけはガレットはやめてね」と言われました(笑)。

◆フェーヴはどこで作られているのでしょうか？

ほとんどベトナムで作られているようです。フランスにも絵付けをして焼く工房がいくつかあって、素敵なフェーヴがありますよ。元々フェーヴ



「C'est en forgeant qu'on devient forgeron.
鍛冶屋になるのは、鉄を打ってこそ。」

photo by Saori

というのはソラマメのことを言うんです。今の形は19世紀からで、それ以前は本物のソラマメがガレットに入っていたそうです。

◆フェーヴにはそんなにたくさんの種類があるんですか？

大量生産のフェーヴを入れているパン屋さんも多いんですが、オリジナルで作るところもあるので、種類はたくさんあると思います。

たとえばラデュレのような有名店は、ガレットデロワとは別で全種類のフェーヴが入ったセットを売っているんです。それを買えばそのお店のフェーヴをコンプリートできるので、コレクターにはありがたいですが、私はやっぱりガレットを食べないで、フェーヴだけ買うのはなんだか失礼かなと。だからガレットも買って、セットも買います(笑)。

◆フェーヴ収集の魅力は何でしょう？

集めて、並べて、眺めて楽しむ、というものですよね、コレクターって(笑)。冬至を過ぎて、1月6日あたりが少し日が長くなったかなと感じる頃なんです。春の訪れや、新しい何かが始まる感じがするのが公現祭のかな。フェーヴ収集の趣味ができたことで、ヨーロッパの長い冬を乗り越えられるようになった気がします。



*公現祭：カトリックのお祭りの一つ。キリスト誕生のお祝いに東方の三博士が贈り物を持ってきたのが1月6日とされ、そのお祝いをする。

毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。

毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国



語り 家師丸ひろ子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

【制作】tv asahi テレビマシニオン ViViA) 【企画協力】ビデオプロモーション 提供 TOKYO GAS

マダム愛のわたくし ミュラン

第144回

パリ郊外、森の中の小さな街にある ミュラン店

パリは美食の街として知られていますが、都心を少し離れた郊外にも実は名店が点在しています。先日訪れた「L'oree de la Foret」は、その中でも特に印象深い、森の中を抜けた小さな町の奥にあるシャトーレストラン。外観は可愛らしい小さなお城のようですが、一歩足を踏み入るとモダンで洗練された空間が広がり、ここは間違いないと感じさせるセンスの良さに心を掴まれます。

この店のこだわりは、自家菜園で育てる野菜をふんだんに使った料理。どの皿にも新鮮な野菜がたっぷりと盛り込まれ、味わいに柔らかな奥ゆきを与えています。最初に供された可愛らしい前菜は、香ばしいサクッとした生地に濃厚なクリームが絶妙に合わさり、店特製のシャンパンカクテルとの相性も抜群。マグロのタタキは柑橘と香草の組み合わせが爽やかで、白身魚はふんわりした身に香り豊かなバターソースが絡み、心地よい調和を感じさせます。火入れが

見事な羊のソテーは臭みがなく、たっぷりの野菜と合わせることで軽やかな後味に。

前菜からメインまで比較的さっぱりと構成されているため、チーズプレートまで飽きずに楽しめるのも計算の上。名物のミルフィーユは、思わず「クリームよりもパイ生地が主役！」と言いたくなるほど生地が秀逸で、私のレストラン経験の中でも記憶に残る逸品でした。

パリ近郊へドライブする予定があるなら、ぜひ訪れてほしい一軒。自然に囲まれた魅力的な空間で、丁寧に作られた料理とともに特別な時間が過ごせるレストランですよ。

- A. 可愛らしい外観にうっとり。
- B. ここのスペシャリティという魚の骨のような形のアミューズブッシュはイカ墨を練り込んだクラッカー生地にタラマをはさんだものでした。
- C. 魚料理はバターソースと。
- D. チーズプレートに使われているコンフィチュールもこちらの自家製なんだとか。
- E. いくらでも食べ続けられる！と思ったミルフィーユ。

writer マダム愛

東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやりに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。

blog マダム愛の徒然パリ日記

<http://www.paris777.blog.fc2.com/>

blog マダム愛のアパートの鍵貸します

<https://www.madameai.com/>

今月のハート

料理 ♥♥♥♥♥
ドリンク ♥♥♥♥♥
サービス ♥♥♥♥♥
雰囲気 ♥♥♥♥♥
コスト ♥♥♥♥♥

— L'oree de la Foret —

255 Rue de la Foret 60600 Etouy

03 44 51 65 18

<http://loreedelaforet>



癒し系フランス男子ギョームの

パリで茶柱 シルブプレ

CHANOKIの冬支度

Bonne année! 明けましておめでとうございます! ギョーム・ユルポーと申します。2023年、パリ郊外南で、赤ちゃんから大人までのんびりとお茶がいただける日本茶専門店「CHANOKI」をオープンしました。

さて、クリスマスの装飾で街全体の雰囲気が明るくなる12月。プレゼントを探し求めるお客様が当店の扉を開けたり閉めたり。11月末からクリスマスに向けてお茶の袋一つ一つに妻の折った小さな鶴を貼っています。150以上折られた鶴は、毎日少しずつお客様の手元へ。3歳の娘もスティックのりを片手に、鶴の貼り付け作業のお手伝い。

寒い日が続き、ほっと一息お茶を飲みこられるお客様も。12月は奈良県山添村の柗下夫妻(みとちや農園)が作った天日干し釜炒り番茶(娘のお気に入り)が人気でした。釜炒り茶特有の香りである釜香も心地よく、口当たりまろやかで、マンゴーやパッションフルーツのような甘さも感じられます。それでは、また来月! À bientôt!

writer ギョーム・ユルポー

パリ郊外にある日本茶専門店「CHANOKI」店主。日本留学中に小笠原流煎茶道に出会い、その奥深さにハマる。お店では日本の農家から直接買い付けたこだわりの茶葉が味わえる。 Instagram @chanoki_paris HP <https://www.chanoki.fr/>



天日干し釜炒り番茶

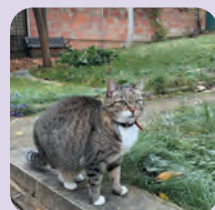


パリに暮らす猫パリにゃん・リリちゃんと ゴキゲン指揮者キョーリのほのぼの生活

パリにゃん通信

最強リリちゃん!

動 物愛護団体の里親サイトで一目惚れして我が家にお迎えした愛猫リリちゃんはフランス海外県のレユニオン島で保護されて飛行機に乗ってパリまでやって来た。一緒に暮らし始めてすぐに分かったことは、可愛い容姿に似合わないかなりのメス番長だったこと(笑)。当時ウチの庭に遊びに来ていた猫さん達を凄じダミ声で威嚇し全て蹴散らしてしまい、とうとう地域の番長猫に君臨してしまった! そんなリリちゃんももうすぐ11歳。人間だったら還暦辺り。最近ではパトロールよりも、家の中でのんびりと幸せそうにお昼寝している時間が増えてきたけど、まだまだ丸くならずに近所の猫さん達を威嚇するダミ声を庭に響かせて欲しいなあ!



リリちゃんのお庭も紅葉が綺麗です♡



writer 押田杏里

日仏混合アマチュア合唱団「パリア・ブリコ合唱団」を主宰する指揮者。パリで猫のリリちゃんに旦那様と「今を生きる」をモットーに暮らしています。 Instagram @abricotjp

とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

ローマ時代から中世、そして現代のパリへ クリュニー美術館

パリ5区カルチエ・ラタンの中心に位置する国立中世美術館、通称クリュニー美術館。歴史をひもとくと、場所の起源は約2000年前に遡ると言って過言ではありません。

紀元1〜2世紀、まだパリがローマ都市ルテティアと呼ばれていた時代、この地には市民生活や社交の場としての公衆浴場が築かれていました。

そして中世に入ると、ブルゴーニュの名門・クリュニー修道院のパリ館がこの地に建てられます。古代の建築を活かしたこの館は、15世紀後半に整えられ、修道院ネットワークの拠点の一つとなりました。

フランス革命期、修道院財産は財政再建のために没収され、国有化されたのち、民間に売却

Musée national du Moyen âge
国立中世美術館
Paris

されます。19世紀に入ってからこの館を購入したのが、官僚であり、中世美術の収集家でもあったアレクサンドル・デュ・ソムラールでした。彼はここを自邸として居住しながら、膨大に収集した中世からルネサンス期の美術品や工芸品を展示する場としたのです。彼亡き後、建物とコレクションは国家に寄贈され、1843年、国立中世美術館として開館しました。

先に古代の建築を活かしたと書きましたが、**中世の人々にとって古代建築は「遺跡」ではなく、すでにそこにある、丈夫で再利用すべき建造物でした。**そのため、古代の浴場の中に中世の館が入り込むような構造が生まれたのです。1000年以上を経ても壁が自立していたローマ建築の圧倒的な耐久性、パリ中心部という立地、そして古代と中世を明確に切り分けられない建築観は、きわめて合理的なものでした。現在見られ



る浴場跡は、後世の発掘によって姿を現したものです。クリュニー美術館は、古代の浴場跡の上に中世の修道院館邸が建てられ、さらに19世紀には邸宅となった、複数の時代が重なり合う稀有な場所なのです。

こうした空間の中で、館を象徴するタペストリー《貴婦人と一角獣》もまた、展示作品というより、初めからこの館に収められるべく存在していたかのようにです。

writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史&日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深掘りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/m/md750819c9bc7>

仏人添乗員リラの

日本リラ散歩



自作のお正月飾り

初めての飾り

Bonne année! あけましておめでとうございます!

年末年始はいつも義実家に行くので、今までお正月の時期は特に飾りをつけていなかった。しかし今年はワークショップに参加することになり、お正月飾りを自作して初めて飾った! 色がとてもきれいで、玄関が華やかになった。

フランスは、お正月特有の意味のある飾りはなく、基本はクリスマス飾りがメイン。その時期の飾りとクリスマスツリーを飾り始めるタイミングと片付けるタイミングは自分の好み、地域、宗教、家族の伝統などによってかなり違う。12月26日からすぐクリスマスツリーを処分する人や、新年をすっきりとした気分で迎えるために12月31日までに片づける人もいれば、1月末や2月までそのままにする人もいる。キリスト教の祝日「公現祭」である1月6日は区切りとしてそのタイミングでしまう人も多い。私は長く楽しみたいタイプでフランスにいた時は、ぎ

りぎりまで待って、もうこれでいいでしょうという1月中の適当なタイミングで片づけていた。

日本はまだクリスマス当日にもなっていないのにもうお正月飾りに切り替わっていることが多くて、クリスマスはさらっと終わるのはちょっと寂しいけど、お正月はお正月で別の飾りつけがあるのも好き。しかも竹、松など、自然のものとつながっていて、それぞれ意味があるということが好き。でも自分で作った飾りはなかなか処分できない…。元々断捨離ができずものを手放せない性格なので、せっかく初めて作ったものは家の中でも長く飾りたい気持ちだけど、縁起が悪いんだよね。また来年作ってみるか!



writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とベランダの植物の世話。

トモクンの

アレコレ、パリコレ、ナンザコレ〜

2025年のパリコレクション、心に残ったコレクションはヘラルボニーとコラボレーションしたアンリアレイジに決定!

専門的な美術教育を受けていない障害者によるアート作品を世に送り出すべく、岩手県を拠点に活動する企業、ヘラルボニーについては、昨年のパリ進出に際してこちらの記事で取り上げました。それから1年が経ち、2025年9月に発表された森永邦彦さんがデザインを手掛けるアンリアレイジのコレクションでは、何とヘラルボニーとのコラボレーションが実現していたのです。

総勢18名のアーティストの作品が、京セラによる水を使用しないプリント技術でプリントされ、各アイテムを華やかに彩りました。ユカイ工学とのコラボレーションによるネコの尻尾が動くバッグがコーディネートされ、尻尾の機械

構造を転用したドレスも登場。それぞれのルックに絶妙な動きが加えられ、今回は何だかとてもエモーショナルです。

事あるごとにアンリアレイジのコレクションについてここで書いている、アンリアレイジ推しの僕。今年3月に発表された、LEDの装飾に彩られたコレクションも素晴らしかったものの、ビヨンセがライブ衣装として着用したことが話題となったくらいで、広く認知されていないことはとても残念。そして今回のコレクション。単にヘラルボニー所属のアーティスト作品をモチーフとして使うだけでなく、そこに有機的な動きを見せる無機質な機械を内蔵させて、よりドラマティックで感情に訴える演出を加えています。これまでに無い服を創造したという点で、あらゆる分野から注目されて欲しいと心から思える仕上がりでした。

ヘラルボニーとアンリアレイジ。もっともっと評価されて然るべき企業とブランドがコラボレーションをしたことは、僕としても嬉しいですし、今年のコレクションの中でも最も印象深

かったトピックです。今後、相乗効果生まれ、両者の注目度が高まっていくことを願ってやまないのでした。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのパリ登の市散歩』にて。

blog 友くんのパリ登の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>



第22回

アメリカ人の冬の楽しみ方を学ぶ

朝 起きたら窓の外に雪が右から左に降っていた。ツルがドアを叩いてくるレベルの雪。ニューヨークの人は冬の寒い期間をどう過ごしているのか。その真実を探るため、ニューヨーク州北部のモホンクという街へ長距離バスで向かった。

泊ったのはモホンクマウンテンハウス。いろんな人から素敵だと聞いていたので、いつか行きたいなと狙っていたのが、ブラックフライデーで安くなっていた。マウンテンハウスというだけあって、山小屋感がある。装飾はほんのりおばあちゃんの家っぽいテイスト。この日はジンジャーブレッドコンテストのイベントが行われていた。作品もすごいけど、審査するお客さんの真剣さがすごい。アメリカ人のジンジャーブレッドへの想いは日本の書初め大会よりも深そうである。どの作品も芸が細かく、アメリカ人ってこんな細かい作業できるんだと失礼に感動。

アフタヌーンティと書いてある部屋ではコーヒーとお茶と、クッキー数種類食べ放題。3段のスコーンとかサンドイッチではない。あれはイギリス！ここはアメリカ！暖炉の前でクッキーとお茶飲んだけ！ということである。普通に美味しかった。ステラおばさんの家はきっとこんなだと思う。

二日目も相変わらずのマイナス10度の世界。イベントチラシによれば、「ファミリーアクティビ

ティ ディスクゴルフ」初耳である。マイナス10度でできるのか。受付に行くとなんまり「ディスクを2枚買ってね。20ドル」。日本昔話に出てくる雪の靴、かんじきの進化版のようなスノーシューズを渡され、地図には、ホテルから徒歩15分くらいの場所。たどり着いたのは雪が広がる雑木林。白い中、ちょこちょこ黒く沈んだところがあるのを覗き込んだら間違いなくウンコ。何者かのウンコのホカホカ具合で雪が溶けて凹んでいる。写真に撮ってAIに聞いたら「活きのいい若い鹿の糞です！」とゴキゲンな返事。さらにもう一種類、聞いてみると「狸です！」周りを見渡すとシカとタヌキのウンコが至る所に落ちている。「ここ、ディスクゴルフのコースじゃなくてトイレじゃん」と次女が怒り出した。ウンコを見過ぎたせいか、私も腹が痛い……「ちょっとトイレ行って戻ってくる！」工事の人のトイレを借りて、戻ってきたら、誰もいない。みんなどこ！必死で林の奥に進んで進んで10分後、奥にずんずん進んでいる家族を発見。母さんうんこに囲まれて遭難する5秒前だったよ。US5。家族はどうやらディスクゴルフのプレートを見つけたらしい。汚いプレートを。何書いてある？完全に廃墟の汚れ。向こう側にこれまた薄汚れたカゴが。ようやくディスクゴルフの全貌がわかった！この籠にフリスビーディスクを入れるんだ！ただのフリスビーで、難しい技術は特に必要なかった。確かに家族向けでもあったが、ほかの家族がプレイした形跡はなかった。5ホールくらい終えたあたりで日が暮れてきて、本気で遭難しそう。そして遭難してもしばらく気づいてもらえなそう、と怖くなって終えることに。ココアとクッキーを配っている部屋にたどり着いて、生命の危機を脱しました。死ぬかと思った。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022 年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

<https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

雪に埋もれて見えない看板▼



▲大雑把なアメリカ人、やるな！

スマホも大画面テレビもアプリをダウンロードするだけで フランスで日本のテレビ

地上・BS・CS50ch
1週間無料体験

アプリをダウンロードして簡単登録で即時視聴

- 地上・BS・CS50局ライブTV
- 過去4週間番組の見直し視聴
- 週間ランキングVOD500本
- 過去4週間番組の予約録画可
- スマホからテレビ画面に転送可
- TV端末契約でスマホ視聴無料

年間契約 TVDongle 無料

モバイル USD 199.9/月 テレビ+モバイル USD 239.9/月 月当たり USD 16.6

サポートメール [日本人受付] admin@kaitekitv.com サポートページ <https://kaitekitv-support.com>

編集後記

Bonne Annee! 今年も宜しくお願いします。今月の巻頭言の通り、新しいことはどんどんやってみようと思います。今年は「ゆるラン」と洋書にチャレンジ！ゆるーくのんびりできたらいいな♪ (編集Y)

編集後記

新年おめでとうございます！脱皮の年と言われる巳年が終わりましたが、足元にはまだ脱いだ皮が引っ掛かっているような。そんなことは構わず暦は進み、新しい年は年で跳躍の年だとか。皆様にも良い年になりますように！(AD F)

日本で使われている
フランス語、
本当はどういう意味??

ペティナイフ

野菜を切ったり果物を切ったり……小さめの使い勝手の良いナイフ、ペティナイフの「ペティ」はフランス語で小さい、ちょっぴりの意味を持つ、プチ (petit) から来ています。

でもこれはフランス語と英語 (knife) のミックス語。フランスだと小さいナイフ、プチクトー (petit couteau) と呼ぶかな。プチつながりで言えば、フランスでは小さいトマトをプチトマトとは言わない。トマトそれぞれ名前があり、日本のプチトマトに似ているのはトマトスライス、トマトグランチかな。

(ノアセットプレス公式podcast
「カフェノアセット」第7回より)



フランス語会話学校
エコールサンパ

03-3337-7933 / info@ecolesympa.com
表参道・阿佐ヶ谷・自由ヶ丘・オンライン

Noisette Press

発行元: ノアセット東京オフィス
<http://www.noisette-press.net/>
編集発行人: 吉野 亜衣子 編集: 小橋 桜子
アートディレクション: 藤原 結花(yap)